

内閣会大回り

支部長訪問

兵庫県支部長 小林 稔氏を訪ねて

兵庫県は、南は瀬戸内海、北は日本海に面し、山地もあり、さらに淡路島もあって、極めて多様な気候と地形を持つ。そのため農産物も、水稻、野菜、花卉とバランス良く多種類を産出している。京都、大阪、神戸という大消費地が近いことも有利な点だ。この恵まれた環境の中で、兵庫県支部は会員数30社に達し、地域ごとの個性がある。令和元年（2019）の6月、兵庫県支部長に就任したばかりの小林 稔さん（小林種苗株式会社 代表取締役）を訪ね、支部の近況などをうかがった。

海外の新興国市場に強い種苗会社

11月とはいえ暖かく晴れた日、兵庫県の小林種苗に向かった。東京方面からは、新幹線で西明石まで行き、そこから最寄駅の加古川まで一駅だ。加古川駅を降り、南に向かって商店街を歩いていくと、やがて栗津天満神社にたどりつく。そのすぐそばに小林種苗の本社はある。

5代目社長である小林 稔さんに話をうかがった。小林種苗の創業は明治43年（1910）。今年で108年の歴史を持つ。初代社長が自転車でこの地域の農家にタネを行商していたことが事業の始まりだ。

小さな種苗店を成長させたのが三代目社長、小林さんの祖父に当たる小林安雄氏だ。「現在のこの場所に会社を移し、ここから少し東にある7ヘクタールの研究農場を作りました。小林種苗の中興の祖とも言える人です」と小林さんは語る。昭和23年（1948年）には会社組織となる。「当時はまだ種苗会社も少ない時代。ですから祖父は昔の日本種苗協会でも役職を果たしていたと聞いています」。

その後、安雄氏の長男（小林さんの父）の小林 勝氏が社長となつたが、残念なことに昭和61年（1986）に54才の若さで急逝した。このとき小林さんは就職して間もない時だった。小林種苗の社長は、勝氏の奥様の忠子さん（小林さんの母、現会長）が引き継ぎ、小林さんも同年、家業に戻り、二人三脚での運営になる。



小林 稔さん
(小林種苗株式会社 代表取締役 日本種苗協会 兵庫県支部長)

小林さん自身が社長となつたのは、平成21年（2009）のこと。もともと海外に関心の強かった小林さんは、種子の品種改良は自社で実行するが、種子生産、販売を海外にシフトしていった。現在、世界10カ国で種子を生産、